

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	23012	事業名	関宿重伝建選定40周年記念事業				評価分類	A2					
	事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()												
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計						
		基本施策	10:歴史文化を生かしたまちづくりの推進				款	10:教育費						
		施策の方向	02:関宿重要伝統的建造物群保存地区の保護の推進				項	05:社会教育費						
	重点プロジェクト	-				目	08:町並み保存費							
	事業期間	R 6 年度 ~ R 7 年度		主な根拠法令等		-								
② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)		事業の対象(誰に、何に対して)		事業の目的(どのような状態にしたいのか)		事業の内容(どのような取組を行うのか)							
	亀山市関宿伝統的建造物群保存地区が、昭和59年12月に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、令和6年12月に伝建選定40周年を迎えるに当たり、記念事業を開催する。		市民(重要伝統的建造物群保存地区住民)及び他地域からの来訪者等		重伝建地区選定から40年を経過し、住民等の世代交代のタイミングでもあることから、改めて「関宿」に携わる様々な担い手と共に、これからの未来へ向けて保存地区住民等の機運を高め、更なる「保存と活用」の活性化を目指すことを目的に実施する。		令和6年度は、亀山市文化会館において、「記念シンポジウム」として、記念講演、関宿の紹介(映像)、芸能披露、表彰、パネルディスカッション等を実施する。また、「子どもワークショップ」として、関小学校において、「未来の関宿(仮)」をテーマに数回ワークショップを開催し、その成果を記念シンポジウムにおいて発表する。 令和7年度は、令和6年度に実施した上記事業及び過去40年間の総括する記念誌を作製・発行を行う。							
③ 事業の実施状況 (P・D)	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度					
	事業計画						○記念シンポジウム ○子どもワークショップ		○記念誌作製、発行					
	活動実績 (計画通り実施できたか)						令和6年11月2日に亀山市文化会館において、「関宿重伝建選定40周年記念シンポジウム」を開催(来場者数:500人)し、映像による関宿の紹介、地元保存団体による芸能披露、記念講演、パネルディスカッション等を行った。また、地元関小学校において、次世代の担い手となる子どもワークショップ(開催回数:4回)の成果発表を行い、関宿の更なる「保存と活用」に寄与することができた。		令和6年12月に重伝建地区選定40周年を迎えたことにより記念誌を作製した。作製にあたっては、文化庁調査官や関宿に関わる各保存団体や職人へのインタビュー等を行い、様々な視点からの意見を取り入れた。 また、令和6年度に初めて開催した「子どもワークショップ」を令和7年度も開催(2回)し、次世代を担う子どもたちの人材育成を行った。					
	計画額	事業費					2,700千円		2,689千円		1,000千円		1,000千円	
			国・県支出金						0千円				0千円	
			地方債						0千円				0千円	
			その他				1,500千円		1,500千円		500千円		0千円	
			一般財源				1,200千円		1,189千円		500千円		1,000千円	
	決算額	事業費					2,560千円				998千円			
			国・県支出金				0千円				0千円			
			地方債				0千円				0千円			
			その他				1,500千円				0千円			
一般財源					1,060千円				998千円					
①期間内計画額(R4-7)		3,700千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額		3,700千円				

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	1,000千円
次年度への繰越額	0千円

⑥ 課 題 （ C ）	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	伝統あるまちなみを未来へつなぐためには、行政のみならず、関宿に携わる様々な担い手が不可欠であることから、地元保存団体等と連携し、「子どもワークショップ」や「関宿かるた大会（大人の部・子どもの部）」等を一過性のイベントではなく、今後も引き続き開催することが必要である。 また、令和16年には「重伝建選定50周年」を迎え、翌令和17年には20年に一度の「関宿東追分一之鳥居お木曳き」が控えていることから、今回の「関宿重伝建選定40周年記念事業」を礎とし、更なる「保存と活用」の活性化が求められる。

1次評価者	市民文化部 文化課 まちなみ文化財GL 豊田親臣
最終評価者	市民文化部 文化課長 梅村美奈子